

# JIS

## といし一寸法許容差及び振れ公差

JIS R 6244 : 2022

(JGWA/JSA)

令和4年1月20日 改正

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

## 日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	酒井 信介	横浜国立大学
(委員)	安部 泉	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサル タント・相談員協会
	市川 直樹	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	大瀧 雅寛	お茶の水女子大学
	奥野 麻衣子	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
	木村 一弘	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	椎名 武夫	千葉大学
	寺家 克昌	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	清家 剛	東京大学
	千葉 光一	関西学院大学
	寺澤 富雄	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	渡田 滋彦	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	中川 梓	一般財団法人日本規格協会
	奈良 広一	長野計器株式会社
	久田 真	東北大学
	廣瀬 道雄	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	藤本 浩志	早稲田大学
	星川 安之	公益財団法人共用品推進機構
	細谷 恵	主婦連合会
	松橋 隆治	東京大学
	棟近 雅彦	早稲田大学
	村垣 善浩	東京女子医科大学
	山内 正剛	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線 医学総合研究所
	山田 陽滋	名古屋大学
	和辻 健二	一般社団法人日本自動車工業会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 17.3.20 改正：令和 4.1.20

官 報 掲 載 日：令和 4.1.20

原 案 作 成 者：研削砥石工業会

(〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 TEL 03-3431-5644)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 050-1742-6017)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 酒井 信介)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## 目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 記号及びその意味	2
5 一般	3
6 平形, テーパー形, へこみ形, 逃げ形及びドリブテール形研削といし	3
6.1 形状	3
6.2 一般用途用研削といし	7
6.3 特殊用途用研削といし	9
6.4 超重研削用研削といし	11
6.5 セットで使用する平形研削といし	11
6.6 リング形研削といし及びディスク形研削といし (接着又は機械的取付け) 並びにナット付リング形研削といし及びナット付ディスク形研削といし	12
7 カップ形研削といし及び皿形研削といし	14
7.1 形状	14
7.2 一般用途用カップ形研削といし及び皿形研削といし	16
7.3 工具研削用カップ形研削といし及び皿形研削といし	16
8 切断といし並びにばり取り及びきず取り用研削といし	16
8.1 形状	16
8.2 切断といし	18
8.3 ばり取り及びきず取り用研削といし	19
9 セグメント研削といし	20
9.1 形状	20
9.2 セグメント研削といしの寸法許容差	21
10 ナット付コーン形研削といし, ナット付プラグ形研削といし及びナット付ボール形研削といし	21
10.1 形状	21
10.2 ナット付コーン形研削といし, ナット付プラグ形研削といし及びナット付ボール形研削といしの寸法許容差	23
11 ホーニングといし及び超仕上げといし	24
12 手研ぎといし	25
13 自由研削用軸付といし	25
参考文献	27
附属書 JA (参考) JIS と対応国際規格との対比表	29
解 説	32

## まえがき

この規格は、産業標準化法第 16 条において準用する同法第 12 条第 1 項の規定に基づき、研削砥石工業会（JGWA）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を改正すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本産業規格である。これによって、**JIS R 6244:2013** は改正され、この規格に置き換えられた。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

# といし一寸法許容差及び振れ公差

## Bonded abrasive products—Limit deviations and run-out tolerances

### 序文

この規格は、2019年に第2版として発行されたISO 13942を基とし、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JA** に示す。

### 1 適用範囲

この規格は、といしの主な寸法許容差及び振れ公差について規定する。ただし、JIS R 6215に規定するゴム切断といし及びJIS R 6219に規定するマグネシア研削といしには適用しない。

**注記** この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

**ISO 13942:2019**, Bonded abrasive products—Limit deviations and run-out tolerances (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1**に基づき、“修正している”ことを示す。

### 2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS B 0106 工作機械—部品及び工作方法—用語

**JIS B 0401-1** 製品の幾何特性仕様（GPS）—長さに関わるサイズ公差のISOコード方式—第1部：サイズ公差、サイズ差及びはめあいの基礎

**注記** 対応国際規格における引用規格：**ISO 286-1**, Geometrical product specifications (GPS)—ISO code system for tolerances on linear sizes—Part 1: Basis of tolerances, deviations and fits

**JIS B 0401-2** 製品の幾何特性仕様（GPS）—長さに関わるサイズ公差のISOコード方式—第2部：穴及び軸の許容差並びに基本サイズ公差クラスの表

**注記** 対応国際規格における引用規格：**ISO 286-2**, Geometrical product specifications (GPS)—ISO code system for tolerances on linear sizes—Part 2: Tables of standard tolerance classes and limit deviations for holes and shafts

JIS R 6004 研削研磨材、といし及び研磨布紙—用語及び記号